木住協耐震診断プログラム 2012 体験版

簡易マニュアル

【木住協耐震診断プログラム 2012 体験版】

windows 対応版

目次

I.体験版プログラムの概要	
1. 木住協耐震診断プログラム 2012 体験版の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2. 製品版プログラムの概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
3. 体験版プログラムの機能制限・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
4. 体験版プログラムの動作環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
Ⅱ.体験版プログラムのインストール方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
Ⅲ.体験版プログラムの起動	
1. シリアル番号の入力	7
2. 体験版プログラムの起動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
Ⅳ.診断仕様の入力・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11
♥. 建物仕様の入力・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	12
Ⅵ. 建物部位の入力・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	29
₩.診断表見本	
一般診断法 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	66
精密診断法1	76

I.体験版プログラムの概要



『木住協耐震診断プログラム 2012 体験版』(以下、体験版プログラム)は、一般社団法人日本木造住宅産業協会 が発行する『木住協耐震診断プログラム 2012Ver1.0』(以下、製品版プログラム)の体験版プログラムです。



『木住協耐震診断プログラム 2012Ver1.0』は、一般財団法人日本建築防災協会が発行する「2012 年改訂版木 造住宅の耐震診断と補強方法」に基づき、下記の診断法を用いて木造住宅の耐震診断を行います。また、『木住 協耐震診断プログラム 2012Ver1.0』は一般財団法人日本建築防災協会の木造住宅耐震診断プログラム評価を 取得しています。

⇒>>>₩F.>+.	一般診断法
砂例伍	精密診断法1



体験版プログラムは下記の操作を行うことができません。

	診断結果の印刷
機能制限	診断結果の表示
	データの保存



	Microsoft(R) Windows(R) XP
<i>動化</i> 体 初 次 へ c	Microsoft(R) Windows(R) Vista
到作唯论们 03	Microsoft(R) Windows(R) 7
	Microsoft(R) Windows(R) 8



手順1:ダウンロードした「MOKUJUKYO2012trial.zip」をダブルクリックして開きます。



手順 2:「MOKUJUKYO2012trial.zip」の中の「MOKUJUKYO2012trial」をコピーします。



手順 3:コピーした「MOKUJUKYO2012trial」を「MOKUJUKYO2012trial.zip」以外のフォルダにペーストします。こ こではデスクトップにペーストします。ペーストした「MOKUJUKYO2012trial」をダブルクリックして開きま



手順 4:「MOKUJUKYO2012trial」の中の「setup.exe」または「setup.msi」のどちらかをダブルクリックします。



手順 5:「木住協耐震診断プログラム 2012 体験版セットアップウィザードへようこそ」の画面が表示されることを確



手順 6:「インストールフォルダの選択」の画面が表示されたら、「次へ(N)>」をクリックします。



手順 7:「インストールの確認」の画面が表示されたら、「次へ(<u>N</u>)>」をクリックします。

뤓	木住協耐震診断プログラム2012体験版	- 🗆 🗙	
インス	トールの確認		
木住協耐 [)次へ]す	村震診断プログラム2012付乗験版 をインストールする準備ができました ジクリックしてインストールを開始してください。	:0	
		/	手順 7:「次へ(<u>N</u>)>」を クリックします。
	キャンセル < 戻る(B)		
iji j	木住協耐震診断プログラム2012体験版	- 🗆 🗙	
木住協 ストー	ぬ耐震診断プログラム2012体験版 をイン ルしています		
木住協商	対震診断ブログラム2012体験版 をインストールしています。		
お待ち	<だ さ い		
	キャンセル く 戻る(B)	次へ(№)>	

手順8:「インストールが完了しました。」の画面が表示されたら、「閉じる(C)」をクリックします。

場 木住協耐震診断プログラム2012体験版	- 🗆 🗙	
インストールが完了しました。		
木住協耐震診断プログラム2012体験版 は正しくインストールされました。 終了するには、 [閉じる]をクリックしてください。		
Windows Update で、NET Framework の重要な更新があるかどうかを確認	してください。	手順 8:「閉じる(<u>C</u>)」を クリックします。
キャンセル 〈戻る(<u>B</u>)	RU3©	

手順9:デスクトップ上に「木住協耐震診断2012体験版」のアイコンが表示されている事を確認します。





手順1:デスクトップ上に表示されている「木住協耐震診断 2012 体験版」をダブルクリックします。



手順2:シリアル番号の入力画面が表示されることを確認し、入力欄に「trial2012」と入力します。 手順3:「OK」をクリックします。



※入力欄に「trial2012」以外を入力した場合は下記の画面が表示されます。 「OK」をクリックし「trial2012」を入力して下さい。



手順4:下記の起動画面が表示されます。

Welcome	x
木住協耐震診断プログラム2012 Version 体験版	
提供/販売:(一社)日本木造住宅産業協会 シリアル番号: trial2012	
新規物件 既存物件 終了]



手順1:起動画面が表示されるていることを確認します。

手順2:新規に建物を診断する場合は、「新規物件」をクリックします。

入力済のデータを開く場合は、「既存物件」をクリックします。

プログラムの使用を中止する場合は、「終了」をクリックします。



下記の「診断仕様入力画面」が表示されます。

	診断仕様入力画	画面	- 🗆 ×
			-
, [-
住宅			
平屋		•	
在来軸組構法		-	
※須) 🔍 なし	್ ಹಗಿ		
1階構造(必須)		v	
		┌◆補強の前後(必須) ―	
诊断法		☞ 補強前	
公开成于 1			
3611777 (v f#c£t£	
	保存して終了	キャンセル 建物	勿仕槎入力画面へ│
	 住宅 平屋 在来軸組構法 須) [○] なし 1階構造(必須) 	診断仕様入力画 (住宅 (住宅 (加藤穂組構法 (須) • なし • あり (1 階構造(必須) (のあり) (日 勝構造(必須) (のあり) (日 (日 (日 (日 (日 (日 (日 (日 (日 (診断仕様入力画面 (住宅 (住宅 (住宅 (在来軸組構法 (須) ○ なし ○ あり 1階構造(必須) (○ 補強前 ②断法 ③断法 ③断法1 (○ 補強領 (○ 補強後

Ⅳ.診断仕様の入力

手順1:建物名称、所在地を入力します。いずれも評点の算定には使用しません。入力した情報は診断表に出力 されます。これらの項目を入力していない場合であっても診断を行うことができます。

手順2:階数、建物構造、混構造の有無を選択します。混構造ありの場合には、1階の構造を選択します。

※1階以外の階が木造以外の混構造の建物は本プログラムの適用範囲外です。

手順3:診断法を選択します。

手順4:補強の前後を選択します。

手順5:「建物仕様入力画面」をクリックします。

※「キャンセル」を選択した場合は、プログラムの使用を中止します。





(1)建物概要の入力

手順1:建築年(西暦)を選択します。

自動的に経年が表示されます。

手順2: 増改築を行った住宅の場合には、増改築年を入力します。 評点の算定には使用しません。

入力していない場合であっても診断を行うことができます。



(2)グリッド・高さの入力

手順1:「グリッド・高さ」をクリックします。

手順2:グリッド(モジュール)[mm]を入力します。入力画面の基本グリッドになります。 手順3:診断対象の建物の階高が一般的な階高であることを確認します。

確認できた場合、「一般的な階高」にクリックでチェックを入れます。



(3)地盤・地形・基礎の入力

手順1:「地盤・地形・基礎」をクリックします。

手順2:判断基準を参考にして地盤の状態を選択します。

地盤の形状が「ランク4」の場合には、地盤の対策を選択します。

手順3:地形を選択します。

地形が「がけ地・急斜面」の場合には、対策を選択します。 手順4:基礎形式及び基礎の状態を選択します。



(4)各種係数

手順1:「各種係数」をクリックします。

手順2:地震地域係数Zを選択します。

手順3:積雪区分を選択します。「多雪区域」を選択した場合は、積雪深[m]を入力します。

手順4:1.0以上1.5以下の範囲で軟弱地盤割増係数を入力します。

手順5:一般診断法の必要耐力算定法を選択します。

手順 6:2 階建てまたは3 階建ての場合は、1 階または2 階の形状割増係数を選択します。



(5)各部の仕様

手順1:「各部の仕様」をクリックします。

手順2:建物重量を選択します。

手順3:柱接合部仕様[接合部 I ~IV]を選択します。※柱接合部低減係数の算定に用いられます。 手順4:柱頭・柱脚接合部の仕様を選択します。

※柱接合部低減係数の算定に用いられません。参考値としてのN値計算に用いられます。 手順5:主要な柱の径[mm]を入力します。

手順6:床下地の仕様を選択します。



(6)老朽度チェックシート

手順1:「老朽度チェックシート」をクリックします。

手順2:初回起動時には既に全ての存在部位にチェックが入っているため、調査していない場合または存在して いない場合はチェックを外して下さい。チェックを外すにはチェックボックスをクリックします。

手順3:劣化事象を確認した項目の劣化部位をクリックします。

※いずれかの項目に劣化が見られた場合は、存在する全ての項目で劣化状況を調査して下さい。 手順4:劣化度による低減係数が計算されるので値を確認します。





【老朽度チェックシートの各部と名称】



(7)診断者

手順1:「診断者」をクリックします。

- 手順2:診断者の情報を入力します。
- 手順3:依頼者の氏名を入力します。
- 手順4:「建物部位入力画面へ」をクリックします。





(1)建物概要の入力

手順1:建築年(西暦)を選択します。

自動的に経年が表示されます。

手順2:増改築を行った住宅の場合には、増改築年を入力します。評点の算定には使用しません。 入力した情報は診断法に出力されます。入力していない場合であっても診断を行うことができます。



(2)グリッド・高さの入力

手順1:「グリッド・高さ」をクリックします。

- 手順2:グリッド(モジュール)[mm]を入力します。入力画面の基本グリッドになります。
- 手順3:各階の階高、軒高、棟高[m]を入力します。

※各階の階高、軒高、棟高には下記の範囲の数値を入力して下さい。範囲外の数値を入力している場合は警告メッセージが表示され、診断を中断します。

- 階高:2.4m 以上 3.4m 以下
- 軒高:2.5m 以上 11m 以下
- 棟高:2.5m 以上 16m 以下

※軒高、棟高は、建物の一次固有周期の算出に用います。



(3)地盤・地形・基礎の入力

手順1:「地盤・地形・基礎」をクリックします。

手順2:判断基準を参考にして地盤の状態を選択します。

地盤の形状が「ランク4」の場合には、地盤の対策を選択します。

手順3:地形を選択します。

地形が「がけ地・急斜面」の場合には、対策を選択します。

手順4:基礎形式及び基礎の状態を選択します。

手順5:基礎の破損・亀裂などの基礎の状態を入力します。



(4)各種係数

手順1:「各種係数」をクリックします。

手順2:地震地域係数Zを選択します。

手順3:積雪区分を選択します。「多雪区域」を選択した場合は、積雪深[m]を入力します。

手順4:1.0以上1.5以下の範囲で軟弱地盤割増係数を入力します。



(5)各部の仕様

手順1:「各部の仕様」をクリックします。

手順2:建物重量を選択します。

手順3:柱接合部仕様[接合部 I ~IV]を選択します。※柱接合部低減係数の算定に用いられます。 手順4:柱頭・柱脚接合部の仕様を選択します。

※柱接合部低減係数の算定に用いられません。参考値としてのN値計算に用いられます。 手順5:主要な柱の径[mm]を入力します。

手順6:水平構面の状態を入力します。

手順7:横架材接合部の情報を入力します。



(6)屋根1

手順1:「屋根1」をクリックします。

手順2:屋根葺材の仕様を選択します。瓦を選択した場合は、棟瓦と平瓦の仕様を選択します。

手順3:各階の屋根形状を選択します。



(7)屋根2

手順1:「屋根2」をクリックします。

手順2:各階の軒の出とケラバの出を入力します。



(8)屋根3

手順1:「屋根3」をクリックします。

手順2:各階の屋根勾配を入力します。



(9)診断者

手順1:「診断者」をクリックします。

手順2:診断者の情報を入力します。

手順3:依頼者の氏名を入力します。

手順4:「建物部位入力画面へ」をクリックします。





建物仕様の入力が完了し「入力画面へ」をクリックすると、下記のような初期画面が表示されます。この画面を用いて建物部位を入力します。初期画面は「建物部位入力画面」「情報パネル」「表示オプション」の3つの画面で 構成されています。



建物部位入力画面の詳細

2





建物部位の入力手順は下記になります。



- ※1 診断対象の建物が2階建てまたは3階建ての場合のみ入力する必要があります。平家の場合は入力の必要はありません。
- ※2 診断対象の建物が3階建ての場合のみ入力する必要があります。平家や2階建ての場合は入力の必要は ありません。



(1)診断オプションの選択

下記の手順により耐震診断の各種オプションを選択します。



【一般診断法を選択した場合】



【精密診断法1を選択した場合】



(2)通り芯の設定

入力のガイドラインとなる「通り芯」を設定します。




【通り芯のスナップ機能の解説】

本プログラムでの入力座標は、モジュールの1,1/2,1/3,1/4に限られています。芯ずれの要素入力をサポートするために、通り芯スナップ機能を追加しました。

1. 通り芯の位置座標の変更

例:X13 通りの通り芯を 200 mm、X13 通り側に移動したい場合







通り芯を入力したら、診断に必要な建物の要素を入力していきます。入力する要素を選択するには、入力ウィンドウの上に並んだ「入力要素選択ボタン」をクリックします。

最初に、一番左側にある「外壁線」を入力します。「外壁線」ボタンは、建物外周を入力します。時計回りに一筆書 きのように各頂点をクリックすることで入力します。最後に最初の頂点をクリックすると1つの外周の入力は終了と なります。また、入力ポイント箇所を間違えた場合、右クリックで一つ前の頂点まで戻ることができます。



【屋根の自動生成】

本プログラムでは、診断仕様入力画面で「精密診断法 1」を選択している場合、外壁線の入力によって、下記のように画面上に屋根を自動生成します。なお、下記は2階建てで、屋根形状「寄棟」を選択している場合の画面表示です。







以下のように床仕様を入力します。

(1)一般診断法の床仕様の入力

診断仕様入力画面において一般診断法を選択した場合、入力する床仕様は耐震診断の評点には影響しません。 主に、間取りを表現する目的で入力します。「床(部屋)ツール」ボタンをクリックすると、ボタンの下側に「室名」を選 択するポップアップが現れます。入力方法は、外壁線と同様に多角形の頂点をクリックしていく方法と矩形をつく る方法の2種類あります。



(2)精密診断法1の床仕様の入力

診断仕様入力画面において精密診断法1を選択した場合、入力する床仕様は、「平均床倍率の算定」と「内壁長 さの算定」に用いられます。1 階の床仕様は、平均床倍率の算定に用いられません。また、一般診断法と同様に 間取りを表現する目的で入力しすことも可能です。「床(部屋)ツール」ボタンをクリックすると、ボタンの下側に「室 名」と「床仕様」を選択するポップアップが現れます。入力方法は、外壁線と同様に多角形の頂点をクリックしてい く方法と矩形をつくる方法の2種類あります。



【床の入力方法の解説】

床の入力の簡易化を図るため、多角形入力にとは別に、矩形入力を用いて入力することができます。 床ツールを選択すると、入力オプションバーに多角形入力ボタンと矩形入力ボタンが表示されます。 いずれかの ボタンを選択することによって、入力方法を選ぶことができます。









7 外壁の入力

「外壁」を入力します。本プログラムにおける「外壁」は、耐力壁を構成する建物外部に面した面材耐力要素を意味します。



【精密診断法1における外壁の劣化】

外壁に劣化がある場合、精密診断法1においては、外壁を入力後下記のように情報パネル上で劣化程度を選択 してください。情報パネル上で選択した劣化程度によって「壁の劣化低減係数」が適用されます。 また、外壁の両端の柱に劣化がある場合においても、外壁の情報パネル上で劣化程度を選択してください。





耐力要素となる「内壁」を入力します。内壁は、外壁とは逆に、「始点から終点に向かって右側」に離れて表示 されます。間仕切り壁に関しては、左から右、右から左の順に同じ頂点をクリックしていくことによって作成します。 垂壁部分に関しては、次の手順の「開口部」を入力することによって耐力要素からキャンセルされますので、開口 部の有無に係わらず内壁を入力していくと作業手間は省けます。



【精密診断法1における内壁の劣化】

精密診断法1においては、内壁に劣化がある場合、内壁を入力後下記のように情報パネル上で劣化程度を選択 してください。情報パネル上で選択した劣化程度によって「壁の劣化低減係数」が適用されます。 また、内壁の両端の柱に劣化がある場合においても、内壁の情報パネル上で劣化程度を選択してください。





窓やドアなどの開口部を入力します。開口部は、「外壁」や「内壁」に重ねるように入力します。入力した開口の タイプによって耐震診断の評点に影響します。「掃出し型」の開口を入力した場合は、垂れ壁として耐力を算定し ます。「窓型」の開口を入力した場合は、垂れ壁・腰壁として耐力を算定します。「全面型」の開口を入力した場合 は、耐力0として算定します。また、入力した開口部は、タイプによって異なる記号が表示されます。



10 筋かいの入力

耐力要素となる「筋かい」を入力します。始点と終点を指定することで入力します。「始点から終点に向かって左側」の方向に、筋かいの仕様を示す記号が表示されます。筋かいの両端部には、自動的に柱が追加されます。





付属架構を入力します。付属架構は「玄関ポーチ」「小屋裏収納」「バルコニー」から選択します。これらの付属 架構が診断対象の建物に無い場合は、入力の必要はありません。付属架構の入力は、外壁線と同様に多角形 の頂点をクリックして入力します。

「1階」には「玄関ポーチ」及び「1階の小屋裏収納」を入力します。ここでは「玄関ポーチ」を入力しています。



【1 階の小屋裏収納の入力】

診断対象の建物の1階に小屋裏収納がある場合は、下記の手順により入力します。





最後に柱を入力します。すでに外壁線の頂点・開口部の両端・筋かいの両端には自動的に柱が入力されていますので、その他の場所でまだ入力されていない箇所について入力します。



【通し柱への変更】

プログラムによって柱は自動的に管柱として入力されています。そこで通し柱がある場合は、柱の入 力後に柱の仕様を通し柱に変更します。下記の手順によって柱の仕様を変更します。









2 階建てや3 階建ての場合は、2 階や3 階も1 階と同様に建物部位を入力します。2 階の入力においては、1 階で入力した「通り芯」及び「外壁線」が表示され、ガイドラインとして利用することができます。3 階の入力におい ては、1階で入力した「通り芯」と2 階で入力した「外壁線」が表示されます。2 階と3 階の入力で上下の階がずれ た場合、正確な診断ができないため建物部位は正確な位置に入力して下さい。







14 各種入力操作機能

(1)建物部位の選択と削除

下記のように「選択ツール」を用いて入力済みの建物部位を「選択」することができます。また、選択後に、選択した建物部位を削除することができます。選択方法には「単一選択」と「囲み選択」の2つの方法があります。



(2)建物各部位の入力項目の仕様の変更

入力項目の仕様の変更は、情報パネルで行います。要素を選択すると、選択された要素の設定項目が情報パネル上に表示されます。情報パネル上で設定を変更した後、入力画面にもどると変更が反映されます。



(3)建物各部位の入力項目の数値入力による変更

情報パネルを用いて、数値入力(柱の小径等)によって変更を行う場合、変更数値が入力画面に適切に 反映させるために、追加の操作が必要になります。



(4) 選択項目の移動(数値入力による移動)

入力画面上の移動したい要素を選択後、「編集」メニューの「図形の移動」を選択すると、右図のような 画面が表示されます。dX に X 方向の移動量(mm), dY に Y 方向の移動量(mm)を入力し、OK ボタンを押すと、 選択要素を移動することができます。



(5)建物各部位ごとの入力項目の表示

入力画面には、建物の各部位の要素が重なって表示されているため、思うように選択したい要素をクリ ックすることができない場合があります。このような場合、表示オプションを利用することによって、 編集したい部位だけ画面上に表示すると便利です。





(6)建物部位の仕様の新規作成

本プログラムの建物部位の各仕様には、「2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法」に記載されている仕様が既定値として設定されています。しかし、ユーザーは、「仕様リスト」にユーザーの任意の仕様を新たに作成することで既定値以外の仕様を入力することができます。

下記の仕様リストは精密診断法1用のリストです。一般診断法を選択している場合は、一般診断法で用いる仕様 以外は非表示になります。

【建物部位の仕様の新規作成方法】

建物部位の仕様は下記の手順で作成します。









(7) 複合耐力壁の登録

本プログラムでは、1つの壁を「面材1」「面材2」「軸組」で構成します。この構成を、下記のように登録することができます。









診断表出力日:2013年5月12日 23:17:16

一般財団法人日本建築防災協会 評価番号:P評価8-W

2012年改訂版『木造住宅の耐震診断と補強方法』

「一般診断法方法1」による診断表 補強前の耐震診断

この診断表は、「木住協耐震診断プログラム2012」によって出力されています.

バージョン:1.0

シリアル:

1.建築概要

①建物名称	:	診断例
②所在地	:	**県**市
③竣工年	:	西暦 2000年 (平成12年)
④建物仕様	:	重い建物(屋根仕様:桟瓦葺)
⑤地域係数Z	:	1.00
⑥軟弱地盤割増	:	1
⑦形状割増係数	:	1
 ⑧積雪深さ 	:	(一般地域のため対象外)
⑨基礎形式	:	Ⅱ 無筋コンクリート基礎(健全)
⑩床仕様	:	火打ち+荒板Ⅱ
①主要な柱の径	:	105mm(140mm未満)

2.壁配置図と1/4分割

【各階の床面積】

1階	57.97[m2]		2階	26.50[m2]
		, ,		

【1階壁配置図】



【1階の各領域の面積】

領域a(1階)	13.35[m2]	領域イ(1階)	13.25[m2]
領域b(1階)	14.91[m2]	領域口(1階)	14.91[m2]

【グリッド(モジュール)】

910[mm]

							·枆	분노	-	一一	力壁の其進耐	N値計算								
記号	▲座 標[m]	Ⅰ <u>圧</u> 標[m]	[mm]	基礎	城市	はいけ	- 1ボ - ランカ	階	出隅											
101	0.00	0.00	105	П	A	1±лар А	IV	0	0	-A [R]	8.50 (4.34)	- 1 (89)	5 90 (3 01)	4 34	0.80	0.00	0.00	0.40	3.07	
102	0.00	3.64	105	Π	A	A	IV	0	0					0.00	0.80	0.00	0.00	0.40	-0.40	
103	1.82	5.46	105	Π	A	A	IV	0	0		3 30 (1.68)			1.68	0.80	0.00	0.00	0.40	0.95	
104	10.92	5.46	105	Π	A	A	IV	0	0	8 50 (4 34)				4 34	0.80	0.00	0.00	0.40	3.07	
105	10.92	0.00	105	Π	A	A	IV		0	8 50 (4 34)			5 90 (3 01)	4 34	0.80	3.51	0.80	1.00	5.28	
106	3 64	5.46	105	Π	A	A	IV	0				2 20 (1 12)		1.12	0.50	0.00	0.00	0.60	-0.04	
107	3.64	4 10	105	Π	A	A	IV	0					2 20 (1 12)	1.12	0.50	0.00	0.00	0.60	-0.04	
108	3.64	3.19	105	Π	А	Α	IV					2.20 (1.12)		1.12	0.50	0.00	0.50	1.60	-1.04	
109	3.64	2.73	105	I	А	Α	IV				2.20 (1.12)	2.20 (1.12)	2.20 (1.12)	1.12	0.50	0.00	0.50	1.60	-1.04	
110	3.64	1.37	105	I	Α	A	IV					2.20 (1.12)	2.20 (1.12)	0.00	0.50	2.51	0.50	1.60	-0.34	
111	3.64	0.00	105	I	Α	A	IV				3.30 (1.68)		2.20 (1.12)	1.68	0.50	3.51	0.80	1.60	2.05	
112	7.28	5.46	105	I	Α	Α	IV	0			. ,	2.20 (1.12)		1.12	0.50	0.00	0.00	0.60	-0.04	
113	7.28	4.55	105	I	Α	Α	IV	0				. ,	2.20 (1.12)	1.12	0.50	0.00	0.00	0.60	-0.04	
114	7.28	3.64	105	Π	Α	Α	IV					2.20 (1.12)		1.12	0.50	1.12	0.50	1.60	-0.48	
115	7.28	2.73	105	Π	Α	Α	IV					2.20 (1.12)	2.20 (1.12)	0.00	0.50	1.12	0.50	1.60	-1.04	
116	7.28	1.37	105	Π	Α	Α	IV				2.20 (1.12)	2.20 (1.12)	2.20 (1.12)	1.12	0.50	0.00	0.50	1.60	-1.04	
117	7.28	0.00	105	I	Α	А	IV						2.20 (1.12)	1.12	0.50	1.12	0.50	1.60	-0.48	
118	4.55	2.73	105	I	Α	А	IV			2.20 (1.12)				1.12	0.50	0.00	0.50	1.60	-1.04	
119	5.46	2.73	105	I	Α	А	IV				2.20 (1.12)			1.12	0.50	0.00	0.50	1.60	-1.04	
120	6.37	2.73	105	Π	Α	А	IV			2.20 (1.12)				1.12	0.50	0.00	0.50	1.60	-1.04	
121	8.19	2.73	105	I	Α	Α	IV				2.20 (1.12)			1.12	0.50	0.00	0.50	1.60	-1.04	
122	9.10	2.73	105	I	Α	Α	IV			2.20 (1.12)				1.12	0.50	0.00	0.50	1.60	-1.04	
123	10.92	2.73	105	Π	Α	Α	IV					3.30 (1.68)	3.30 (1.68)	0.00	0.50	0.00	0.50	1.60	-1.60	
124	8.19	1.37	105	Π	Α	Α	IV			2.20 (1.12)				1.12	0.50	0.00	0.50	1.60	-1.04	
125	9.10	1.37	105	Π	Α	Α	IV				2.20 (1.12)			1.12	0.50	0.00	0.50	1.60	-1.04	
126	10.92	1.37	105	Π	Α	Α	IV			2.20 (1.12)		5.90 (3.01)	3.30 (1.68)	1.12	0.50	0.83	0.50	1.60	-0.63	
127	0.00	1.82	105	Π	Α	Α	IV	0				5.90 (3.01)		2.51	0.50	0.00	0.00	0.60	0.66	
128	4.55	5.46	105	Π	Α	Α	IV	0			8.50 (4.34)			4.34	0.50	0.00	0.00	0.60	1.57	
129	5.46	5.46	105	I	Α	Α	IV	0		8.50 (4.34)				4.34	0.50	0.00	0.00	0.60	1.57	
130	9.10	5.46	105	Π	Α	Α	IV	0			8.50 (4.34)			4.34	0.50	0.00	0.00	0.60	1.57	
131	1.82	0.00	105	Π	Α	Α	IV	0		8.50 (4.34)				4.34	0.50	0.00	0.00	0.60	1.57	
132	9.10	0.00	105	Π	Α	Α	IV				8.50 (4.34)			4.34	0.50	2.51	0.50	1.60	1.82	
133	2.73	5.46	105	Π	Α	Α	IV	0		3.30 (1.68)				1.68	0.50	0.00	0.00	0.60	0.24	
134	2.73	0.00	105	Π	Α	Α	IV	0						0.00	0.50	0.00	0.00	0.60	-0.60	
135	4.55	0.00	105	Π	Α	Α	IV			3.30 (1.68)				1.68	0.50	2.51	0.50	1.60	0.50	
136	5.46	0.00	105	Π	Α	Α	IV							0.00	0.50	1.68	0.50	1.60	-0.76	
137	0.00	2.73	105	Π	Α	Α	IV	0						0.00	0.50	0.00	0.00	0.60	-0.60	
138	6.37	5.46	105	Π	Α	Α	IV	0						0.00	0.50	0.00	0.00	0.60	-0.60	
139	10.92	4.10	105	Π	Α	Α	IV	0				3.30 (1.68)		1.68	0.50	0.00	0.00	0.60	0.24	
140	10.92	5.01	105	Π	Α	Α	IV	0						0.00	0.50	0.00	0.00	0.60	-0.60	

3.必要耐力の算出(簡易法による算出)

	床面積 [m2]		床面積あ たり必要耐 カ [kN/m2]		積雪用必 要耐力 [kN/m2]		地域係数 Z		軟弱地盤 割増係数		形状 割増係数		混構造 割増係数		必要耐力 Qr [kN]
						ß									
2 階	26.50	x(0.53	+	0.00)x	1.00	x	1.00	x	1.00	x	1.00	=	14.04
1 階	57.97	x(1.06	+	0.00)x	1.00	x	1.00	x	1.00	x	1.00	=	61.44

床面積の詳細

	外壁線で囲まれた範 囲の面積[m2]	バルコニー面積×0.4 [m2]	小屋裏収納面積×高さ h/2.1[m2]	玄関ポーチ面積×1.0 [m2]	床面積[m2]			
3階								
2階	26.50	0.00	0.00	0.00	26.50			
1階	57.97	0.00	0.00	0.00	57.97			

4.領域毎の必要耐力の算出(耐力要素の配置等による低減係数算出用)

			床面積 [m2]		床面積あ たり必要 耐力 [kN/m2]		積雪用必 要耐力 [kN/m2]		地域係数 Z		軟弱地盤 割増係数		形状 割増係数		混構造 割増係数		必要耐力 Qr [kN]
								Ì		Ì							
	領 域 a	2 階	6.62	x(0.53	+	0.00)x	1.00	x	1.00	x	1.00	x	1.00	=	3.51
X		1 階	13.35	x(0.40	÷	0.00)x	1.00	x	1.00	x	1.00	x	1.00	=	5.34
向		N.															
	領 域 b	2 階	6.62	x(0.53	+	0.00)x	1.00	x	1.00	x	1.00	x	1.00	=	3.51
		1 階	14.91	x(1.06	÷	0.00)x	1.00	x	1.00	x	1.00	x	1.00	=	15.80
	領 域 イ	2 階	6.62	x(0.53	÷	0.00)x	1.00	x	1.00	x	1.00	x	1.00	=	3.51
Y		1 階	13.25	x(0.40	+	0.00)x	1.00	x	1.00	x	1.00	x	1.00	=	5.30
万向)									
	領 域 口	2 階	6.62	x(0.53	+	0.00)x	1.00	x	1.00	x	1.00	x	1.00	=	3.51
		1 階	14.91	x(1.06	+	0.00)x	1.00	x	1.00	x	1.00	x	1.00	=	15.80
5.壁・の強さの算出

【1階-X】

	柱1 柱2 壁仕様		仕様に よる壁基 準耐力 Fw [kN/m]	壁基準 耐力の 合計 ΣFw [kN/m]		接合部 耐力低 減 Kj		壁長L [m]		各壁の 耐力 Qwi [kN]	領域内 の壁の 耐力の 合計Qw [kN]		
		103	133	面材1:木ずり下地モルタル塗り 軸組 :なし 面材2:大壁:石膏ボード(胴縁仕様)	2.20 1.10	3.30	x	0.59	x	0.91	=	1.76	
	領域	128	129	面材1:木ずり下地モルタル塗り 軸組 :筋かい(木材45x90襷掛)(くぎ打ち) 面材2:大壁:石膏ボード(胴縁仕様)	2.20 5.20 1.10	8.50	x	0.30	x	0.91	=	2.32	11 35
	a	130	104	面材1:木ずり下地モルタル塗り 軸組 :筋かい(木材45x90襷掛)(くぎ打ち) 面材2:大壁:石膏ボード(胴縁仕様)	2.20 5.20 1.10	8.50	x	0.30	x	1.82	=	4.64	11.55
		102	103	面材1:木ずり下地モルタル塗り 軸組:なし 面材2:大壁:石膏ボード(胴縁仕様)	2.20 1.10	3.30	x	0.59	x	1.36	=	2.64	
		109	118	面材1:大壁:石膏ボード(胴縁仕様) 軸組 :なし 面材2:大壁:石膏ボード(胴縁仕様)	1.10 1.10	2.20	x	0.96	x	0.91	=	1.92	
	日日	119	120	面材1:大壁:石膏ボード(胴縁仕様) 軸組 :なし 面材2:大壁:石膏ボード(胴縁仕様)	1.10 1.10	2.20	x	0.96	x	0.91	=	1.92	6.64
X	ふ	121	122	面材1:大壁:石膏ボード(胴縁仕様) 軸組:なし 面材2:大壁:石膏ボード(胴縁仕様)	1.10 1.10	2.20	x	0.96	x	0.91	=	1.92	0.04
向		102	103	面材1:木ずり下地モルタル塗り 軸組 :なし 面材2:大壁:石膏ボード(胴縁仕様)	2.20 1.10	3.30	x	0.59	x	0.45	=	0.88	
		101	131	面材1:大壁:石膏ボード(胴縁仕様) 軸組 :筋かい(木材45x90襷掛)(くぎ打ち) 面材2:木ずり下地モルタル塗り	1.10 5.20 2.20	8.50	x	0.30	x	1.82	=	4.64	
		111	135	面材1:大壁:石膏ボード(胴縁仕様) 軸組 :なし 面材2:木ずり下地モルタル塗り	1.10 2.20	3.30	x	0.79	x	0.91	=	2.36	
	領 域 b	132	105	面材1:大壁:石膏ボード(胴縁仕様) 軸組 :筋かい(木材45x90襷掛)(くぎ打ち) 面材2:木ずり下地モルタル塗り	1.10 5.20 2.20	8.50	x	0.60	x	1.82	=	9.28	22.05
		116	124	面材1:大壁:石膏ボード(胴縁仕様) 軸組:なし 面材2:大壁:石膏ボード(胴縁仕様)	1.10 1.10	2.20	x	0.96	x	0.91	=	1.92	
		125	126	面材1:大壁:石膏ボード(胴縁仕様) 軸組:なし 面材2:大壁:石膏ボード(胴縁仕様)	1.10 1.10	2.20	x	0.96	х	1.82	=	3.84	
					合計								40.04

12

【1階-X その他の耐力要素による耐力 有開口壁】

		柱1	柱2	壁仕様	仕様に よる壁基 準耐力 Fw [kN/m]	壁基準 耐力の 合計 ΣFw [kN/m]	修正耐 力 (kN/m)		壁長L [m]		各有開 口壁の 耐力 Qwoi [kN]	有開口 壁の耐 カQwo [kN]
	領域	133	128	面材1:木ずり下地モルタル塗り 軸組:なし 面材2:大壁:石膏ボード(胴縁仕様)	2.20 1.10	3.30	0.30	x	1.82	I	0.55	2 35
	şκ α	129	130	面材1:木ずり下地モルタル塗り 軸組 :なし 面材2:大壁:石膏ボード(胴縁仕様)	2.20 1.10	3.30	0.60	x	3.00	=	1.80	2.55
		118	119	面材1:大壁:石膏ボード(胴縁仕様) 軸組 :なし 面材2:大壁:石膏ボード(胴縁仕様)	1.10 1.10	2.20	0.30	x	0.91	=	0.27	
	中央部	120	121	面材1:大壁:石膏ボード(胴縁仕様) 軸組 :なし 面材2:大壁:石膏ボード(胴縁仕様)	1.10 1.10	2.20	0.30	x	1.82	=	0.55	1.91
× 方 向		122	123	面材1:大壁:石膏ボード(胴縁仕様) 軸組 :なし 面材2:大壁:石膏ボード(胴縁仕様)	1.10 1.10	2.20	0.60	x	1.82	=	1.09	
		131	111	面材1:大壁:石膏ボード(胴縁仕様) 軸組 :なし 面材2:木ずり下地モルタル塗り	1.10 2.20	3.30	0.30	x	1.82	=	0.55	
	領 域 b	135	132	面材1:大壁:石膏ボード(胴縁仕様) 軸組:なし 面材2:木ずり下地モルタル塗り	1.10 2.20	3.30	0.30	x	3.00	=	0.90	1.72
		124	125	面材1:大壁:石膏ボード(胴縁仕様) 軸組:なし 面材2:大壁:石膏ボード(胴縁仕様)	1.10 1.10	2.20	0.30	x	0.91	=	0.27	
					合計						-	5.98

6.耐力要素の配置等による低減係数

【床の仕様】 火打ち+荒板 Ⅱ

			領域の必要耐力Qr [kN]	領域毎の壁の耐力 [kN]	充足率 Qw/Qr	配置等による低減 係数eKfl	
	X MAR	//顏嫩的//					
///	(/////	/顔嫩//					
//////		//顏燉///					
		/領域口/X//////////////////////////////////				X/////////////////////////////////////	
	x _{左向} 領域a		3.51	6.19	1.76	1.00	
つび比		領域b	3.51	4.67	1.33	1.00	
218	∨士向	領域イ	3.51	3.66	1.04	0.85	
		領域口	3.51	2.84	0.81	0.85	
	V古向	領域a	5.34	11.35	2.13	1.00	
- 17EE		領域b	15.80	22.05	1.39	1.00	
口的目	∨≠向	領域イ	5.30	7.92	1.49	0.67	
		領域口	15.80	11.45	0.72	0.07	

7.劣化度による低減係数

部估			小儿主告	存在	点数	劣化点
	台》1立	材料 *部材寺	为化争家 	築10年 未満	築10年 以上	数
屋坦草を打		金属板	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれがある		2	
/=	ENKECIN	瓦・スレート	割れ、欠け、ずれ、欠落がある		2	
	北涌	軒・呼び樋	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある		2	
	1742	縦樋	変退色、さび、割れ、ずれ、欠落がある		2	
		木製板・合板	水浸み痕、こけ、割れ、抜け節、ずれ、腐朽がある			
<i>b</i>	く 居在 イナート (ギ	窯業系サイディング	こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある		4	4
	「玉口工い	金属サイディング	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、シール切れがある			4
		モルタル	こけ、0.3mm以上の亀裂、剥離がある	_		
	露出し	た躯体	水浸み痕、こけ、腐朽、蟻道、蟻害がある		2	
		木製板、合板	水浸み痕、こけ、割れ、抜け節、ずれ、腐朽がある			
パル	毛すり辟	窯業系サイディング	こけ、割れ、ずれ、欠落、シール切れがある			
Ξ	1 7 7 主	金属サイディング	変退色、さび、さび穴、ずれ、めくれ、目地空き、シール切れがある			
_		外壁との接合部	外壁面との接合部に亀裂、隙間、緩み、シール切れ・剥離がある			
	J:	末排水	壁面を伝って流れている、または排水の仕組みがない			
Ŧ	一般室	内壁、窓下	水浸み痕、はがれ、亀裂、カビがある		2	
昼	公安	タイル壁	目地の亀裂、タイルの割れがある		2	
	71 포	タイル以外	水浸み痕、変色、亀裂、カビ、腐朽、蟻害がある		2	
	中田	一般室	傾斜、過度の振動、床鳴りがある		2	
床		廊下	傾斜、過度の振動、床鳴りがある		1	
	床下		基礎の亀裂や床下部材に腐朽、蟻道、蟻害がある		2	
						4.00
				0.81		

8.上部構造評点

		壁・柱の耐力 Qu [kN]	配置等による 低減係数eKfl	劣化度dK	建物保有耐力 edQu [kN]	必要耐力Qr [kN]	上部構造評点 edQu/Qr
2陛	X方向	13.75	1.00	0.81	11.12	14.04	0.79
219	Y方向	11.38	0.85	0.01	7.86	14.04	0.56
1陛	X方向	46.02	1.00		37.22	61.44	0.60
198	Y方向	38.55	0.67		20.83	01.44	0.33

耐震診断依頼者	****
---------	------

様

総合評価

【地盤】

地盤	対策	記入欄(〇印)	注意事項	
よい				
普通				
悪い	表層の地盤改良を行っている			特になし
(埋立地、盛土、軟弱地	杭基礎である]	
盛	特別な対策を行っていない]	

【地形】

地形	対策	記入欄(〇印)	注意事項
平坦·普通			
	コンクリート擁壁		
がけ地・急斜面	石積み		
	特別な対策を行っていない		

【基礎】

基礎	状態	記入欄(〇印)	注意事項
()	健全		
<u> </u>	ひび割れが生じている		
	健全		
無筋コンクリート基礎	軽微なひび割れが生じている		
	ひび割れが生じている		特になし
工工甘林	足固めあり		
上口至啶	足固めなし		
その他(ブロック基礎等)			

【上部構造】

上部構造評点のうち最小の値	判定 1.5以上 : 倒壊しない 1.0~1.5未満 : 一応倒壊しない 0.7~1.0未満 : 倒壊する可能性がある 0.7未満 : 倒壊する可能性が高い
0.33	倒壊する可能性が高い

【その他の注意事項】

特になし

診断者	****	講習会	主催者	****
所属	****		講習終了番号	****
連絡先	**-***			TEL : **-***

23:17:16

診断表出力日:2013年5月12日 23:19:2

一般財団法人日本建築防災協会 評価番号:P評価8-W

2012年改訂版『木造住宅の耐震診断と補強方法』

「精密診断法1方法1」による診断表 補強前の耐震診断

この診断表は、「木住協耐震診断プログラム2012」によって出力されています。

バージョン:1.0

シリアル:

1.建物概要

(1)建物名称	診断例	诊断例		
(2)所在地	**県**市	*県**市		
(3)建物用途	1:住宅			
(4)建物階数	2階建て			
(5)建物構造	1:在来軸組構造			
(6) 混構造の有無	なし			
(0)此件近07 無				
(7)建筑在	西暦 2000年 (平	成12年)		
()建業牛	経年∶13年			
(8)増改築年	なし			
	3階	0.00m2		
心西巷	2階	26.50m2		
(3)山 頂	1階	57.97m2		
	延床面積	84.47m2		
	3階	0.00m		
(10)階高	2階	3.00m		
	1階	3.00m		

2.各部の構造(外壁・軸組(筋違等)を除く)

ſ

(1)屋根材料	羕 :桟瓦葺)							
			3階	-				
(2)屋根形状			2階					
			1階		寄棟			
			3階					
(3)屋根勾配			2階	4.00寸				
			1階	4.00寸				
	っ四地	軒の	の出		-			
	い日	ケラノ	で出	_				
(4)軒の出 ケラバ	つ四地	軒の出		650.00mm				
の出	∠№	ケラバの出		-				
	17比	軒の	の出	650.00mm				
	山口	ケラノ	で出	_				
(5)基礎の形式				無筋コンク	リート基码	楚(健全)Ⅱ		
(6)筋かい接合部の	の仕様		仕様1	規定の仕様	許容値	0.0倍		
(7)柱接合部仕様	「接合部	(I~IV]	仕様1		接合部い	,		
			仕様1			1.00		
(8)床下地の仕様			仕様2	火打ち:金物HBまたは木 製90×90:平均負担面積	床倍率	0.36		
			仕様3	5寸勾配以下:幅180杉 板9mm以上(又は構造用	床倍率	0.20		

3.地盤・構造計画

(1)地盤の状況	よい・普通
(2)地形	平坦・普通
(3)基礎の破損・亀裂など	破損亀裂なし
(4)水平構面の状態	吹き抜けなし
(5)独立柱の有無	なし
(6)横架材接合部の仕様	羽子板ボルト止め
(7)屋根葺き材の仕様	瓦

4.各種の係数

(1)地域係数Z	1.00		
(2)地盤種別(法令)	1種		
(3)積雪区分	一般地域	多雪区域の場合の積雪深	-

٦

壁配置図

【各階の床面積】

1階 57.97 [m2] 2

2階 26.50 [m2]

【1階壁配置図】



【グリッド(モジュール)】

910[mm]

屋根面積リスト

1階屋根

2階屋根

Т

号 X座標 Y座標 (m2) 9100.0 3640.0 10920.0 5460.0)			
9100.0 3640.0				
10920.0 5460.0				
10020.0 0100.0				
1820.0 5460.0	15.02			
2950.8 2730.0	2			
3640.0 2730.0				
3640.0 3640.0				
2950.8 2730.0				
1820.0 5460.0	03.92			
00.0 3640.0				
2573.9 2573.9				
2573.9 2573.9				
00.0 00.0				
3 3640.0 00.0 06.1	06.19			
3640.0 2730.0				
2950.8 2730.0				
2573.9 2573.9				
4 00.0 3640.0 04.6	8			
00.0 00.0				
10920.0 3640.0				
5 10920.0 5460.0 01.6	6			
9100.0 3640.0				

-147						
番口	頂点	座標	面積			
号	X座標	頂点座標 漂 Y座標 .0 1820.0 .0.0 3640.0 .0 3640.0 .0 3640.0 .0 1820.0 .0 1820.0 .0 1820.0 .0 1820.0 .0 0.0 .0 1820.0 .0 3640.0 .0 3640.0 .0 3640.0 .0 3640.0 .0 1820.0	(m2)			
	9100.0	1820.0				
1	10920.0	3640.0	9 94			
1	3640.0	3640.0	3.34			
	5460.0	1820.0				
	5460.0	1820.0				
2	3640.0	0.0	9.94			
2	10920.0	0.0				
	9100.0	1820.0				
	5460.0	1820.0				
3	3640.0	3640.0	3.31			
	3640.0	0.0				
	9100.0	9100.0 1820.0				
4	10920.0	0.0	3.31			
	10920.0	3640.0				

3階屋根

番	頂点	座標	面積
号	×座標	Y座標	(m2)

【1階柱リスト】

	X座	Y座	小径	₩ 7#k	接	合部仕	:様	最上	11.78	耐力壁の基準耐力 (相当壁倍率)				N値計算					
記号	標[m]	·/ 標[m]	[mm]	基礎	柱頭	柱脚	ランク	階	出隅	-X側	+X側	-Y側	+Y側	A1	B1	A2	B2	L	N
101	0.00	0.00	105	I	A	A	IV	0	0		8.50 (4.34)		5.90 (3.01)	4.34	0.80	0.00	0.00	0.40	3.07
102	0.00	3.64	105	Π	Α	А	IV	0	0					0.00	0.80	0.00	0.00	0.40	-0.40
103	1.82	5.46	105	Π	Α	А	IV	0	0		3.30 (1.68)			1.68	0.80	0.00	0.00	0.40	0.95
104	10.92	5.46	105	I	Α	Α	IV	0	0	8.50 (4.34)				4.34	0.80	0.00	0.00	0.40	3.07
105	10.92	0.00	105	I	Α	Α	IV		0	8.50 (4.34)			5.90 (3.01)	4.34	0.80	3.51	0.80	1.00	5.28
106	3.64	5.46	105	I	Α	Α	IV	0				2.20 (1.12)		1.12	0.50	0.00	0.00	0.60	-0.04
107	3.64	4.10	105	Π	Α	Α	IV	0					2.20 (1.12)	1.12	0.50	0.00	0.00	0.60	-0.04
108	3.64	3.19	105	Π	Α	Α	IV					2.20 (1.12)		1.12	0.50	0.00	0.50	1.60	-1.04
109	3.64	2.73	105	Π	Α	Α	IV				2.20 (1.12)	2.20 (1.12)	2.20 (1.12)	1.12	0.50	0.00	0.50	1.60	-1.04
110	3.64	1.37	105	I	Α	Α	IV					2.20 (1.12)	2.20 (1.12)	0.00	0.50	2.51	0.50	1.60	-0.34
111	3.64	0.00	105	I	Α	Α	IV				3.30 (1.68)		2.20 (1.12)	1.68	0.50	3.51	0.80	1.60	2.05
112	7.28	5.46	105	Π	Α	Α	IV	0				2.20 (1.12)		1.12	0.50	0.00	0.00	0.60	-0.04
113	7.28	4.55	105	Π	Α	Α	IV	0					2.20 (1.12)	1.12	0.50	0.00	0.00	0.60	-0.04
114	7.28	3.64	105	Π	Α	Α	IV					2.20 (1.12)		1.12	0.50	1.12	0.50	1.60	-0.48
115	7.28	2.73	105	Π	Α	Α	IV					2.20 (1.12)	2.20 (1.12)	0.00	0.50	1.12	0.50	1.60	-1.04
116	7.28	1.37	105	Π	Α	Α	IV				2.20 (1.12)	2.20 (1.12)	2.20 (1.12)	1.12	0.50	0.00	0.50	1.60	-1.04
117	7.28	0.00	105	Π	Α	Α	IV						2.20 (1.12)	1.12	0.50	1.12	0.50	1.60	-0.48
118	4.55	2.73	105	Π	Α	Α	IV			2.20 (1.12)				1.12	0.50	0.00	0.50	1.60	-1.04
119	5.46	2.73	105	Π	Α	Α	IV				2.20 (1.12)			1.12	0.50	0.00	0.50	1.60	-1.04
120	6.37	2.73	105	Π	Α	Α	IV			2.20 (1.12)				1.12	0.50	0.00	0.50	1.60	-1.04
121	8.19	2.73	105	Π	Α	Α	IV				2.20 (1.12)			1.12	0.50	0.00	0.50	1.60	-1.04
122	9.10	2.73	105	Π	Α	Α	IV			2.20 (1.12)				1.12	0.50	0.00	0.50	1.60	-1.04
123	10.92	2.73	105	Π	Α	Α	IV					3.30 (1.68)	3.30 (1.68)	0.00	0.50	0.00	0.50	1.60	-1.60
124	8.19	1.37	105	Π	Α	Α	IV			2.20 (1.12)				1.12	0.50	0.00	0.50	1.60	-1.04
125	9.10	1.37	105	I	Α	Α	IV				2.20 (1.12)			1.12	0.50	0.00	0.50	1.60	-1.04
126	10.92	1.37	105	I	Α	Α	IV			2.20 (1.12)		5.90 (3.01)	3.30 (1.68)	1.12	0.50	0.83	0.50	1.60	-0.63
127	0.00	1.82	105	I	Α	Α	IV	0				5.90 (3.01)		2.51	0.50	0.00	0.00	0.60	0.66
128	4.55	5.46	105	I	Α	Α	IV	0			8.50 (4.34)			4.34	0.50	0.00	0.00	0.60	1.57
129	5.46	5.46	105	I	Α	Α	IV	0		8.50 (4.34)				4.34	0.50	0.00	0.00	0.60	1.57
130	9.10	5.46	105	I	Α	Α	IV	0			8.50 (4.34)			4.34	0.50	0.00	0.00	0.60	1.57
131	1.82	0.00	105	I	Α	Α	IV	0		8.50 (4.34)				4.34	0.50	0.00	0.00	0.60	1.57
132	9.10	0.00	105	I	Α	Α	IV				8.50 (4.34)			4.34	0.50	2.51	0.50	1.60	1.82
133	2.73	5.46	105	I	Α	Α	IV	0		3.30 (1.68)				1.68	0.50	0.00	0.00	0.60	0.24
134	2.73	0.00	105	Π	Α	A	IV	0						0.00	0.50	0.00	0.00	0.60	-0.60
135	4.55	0.00	105	Π	Α	A	IV			3.30 (1.68)				1.68	0.50	2.51	0.50	1.60	0.50
136	5.46	0.00	105	Π	Α	A	IV							0.00	0.50	1.68	0.50	1.60	-0.76
137	0.00	2.73	105	I	Α	Α	IV	0						0.00	0.50	0.00	0.00	0.60	-0.60
138	6.37	5.46	105	Π	Α	A	IV	0						0.00	0.50	0.00	0.00	0.60	-0.60
139	10.92	4.10	105	I	Α	Α	IV	0				3.30 (1.68)		1.68	0.50	0.00	0.00	0.60	0.24
140	10.92	5.01	105	Π	Α	Α	IV	0						0.00	0.50	0.00	0.00	0.60	-0.60

5.必要耐力の算定(建築基準法施行令に準じて求める方法) (1)床面積 (2)荷重表(単位面積あたり)

階	面積[m2]
3階床面積	
2階床面積	26.50
1階床面積	57.97
延床面積	84.47

階	屋根荷重 (kN/m2)	外壁荷重 (kN/m2)	内壁荷重 (kN/m2)	床荷重 (kN/m2)	積載荷重 (kN/m2)							
3階												
2階	1.30	1.00	0.35	0.60	0.60							
1階	1.30	1.00	0.35	0.60	0.60							

(2)荷重表(床面積あたり)

階	屋根荷重 (kN/m2)	外壁荷重 (kN/m2)	内壁荷重 (kN/m2)	床・積載 荷重 (kN/m2)
3階				
2階	1.30	1.00	0.35	1.20
1階	1.30	1.00	0.35	1.20

階	バルコニー 荷重 (kN/m2)	小屋裏収 納荷重 (kN/m2)	玄関ポーチ 荷重 (kN/m2)
3階			
2階	0.00	0.00	
1階	0.00	0.00	0.00

(3)支持重量の計算

階	床面積 (m2)	床・積載 単位荷重 (kN/m2)	床重量 (kN)	外壁長さ (m)	階高 (m)	上階外壁 荷重 (kN/m2)	下階外壁 荷重 (kN/m2)	外壁重量 (kN)	内壁長さ (m)	階高 (m)	上階内壁 荷重 (kN/m2)	下階内壁 荷重 (kN/m2)	内壁重量 (kN)
4階床													
3階床	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00	0.35	0.35	0.00
2階床	26.50	1.20	31.80	21.84	3.00	1.00	1.00	32.76	3.64	3.00	0.35	0.35	1.91
1階床	57.97	1.20	69.56	31.69	3.00	1.00	0.00	80.30	18.20	3.00	0.35	0.00	11.47

階	屋根部分 面積 (m2)	屋根単位 荷重 (kN/m2)	勾配	勾配補正 値	積雪割増 荷重 (kN/m2)	屋根部分 重量 (kN)	軒の出 (m)	軒面積 (m2)	軒重量用 勾配補正 値	軒重量 (kN)	ケラバの出 (m)	ケラバ面 積 (m2)	ケラバ重 量用勾配 補正値	ケラバ重 量 (kN)
4階床														
3階床	26.50	1.30	4.00	0.93	0.00	37.10	0.65	14.20	0.93	19.88	0.00	0.00	0.00	0.00
2階床	31.47	1.30	4.00	0.93	0.00	44.06	0.65	20.60	0.93	28.84	0.00	0.00	0.00	0.00
1階床														

階	出隅軒面 積 (m2)	出隅軒用 勾配補正 値	出隅軒重 量 (kN)	妻壁面積 (m2)	上階外壁 荷重 (kN/m2)	妻壁重量 (kN)	屋根重量 合計 (kN)
4階床							
3階床	1.69	0.93	2.37	0.00	0.00	0.00	59.35
2階床	2.11	0.93	2.96	0.00	0.00	0.00	75.86
1階床							

階	バルコニー 面積 (m2)	小屋裏収 納面積 (m2)	玄関ポー チ面積 (m2)	バルコニー 荷重 (kN/m2)	小屋裏収 納荷重 (kN/m2)	玄関ポー チ荷重 (kN/m2)	バルコニー 重量 (kN)	小屋裏収 納重量 (kN)	玄関ポー チ重量 (kN)	付属架構 重量 (kN)
4階床										
3階床	0.00	0.00	-	0.00	0.00	-	0.00	0.00	-	0.00
2階床	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
1階床	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

階	各層重量 (kN)	階
4階床		3階
3階床	59.35	2階
2階床	142.33	1階
1階床	161.33	

階	支持重量 _(kN)
3階	
2階	59.35
1階	201.68

5.必要耐力の算定(建築基準法施行令に準じて求める方法)

(4)振動特性係数

(5)Ai分布の算定

階	階高 (m)	建物高さ (m)	一次周期 (s)	地盤種別	振動特性 係数Rt
3階					
2階	3.00	6.87	0.21	I種	1.00
1階	3.00				

,								
	Ai分布の算定							
階	支持重量 _(kN)	αί	Ai					
3階								
2階	59.35	0.29	1.39					
1階	201.68	1.00	1.00					

(6)必要耐力の算定

階	地域係数Z	振動特性 係数Rt	Ai	支持重量 Wi (kN)	層せん断力 係数Ci	軟弱地盤 割増	地震力Pi (kN)	混構造 割増	必要耐力 Qr (kN)
4階									
3階									
2階	1.00	1.00	1.39	59.35	0.28	1.00	16.55	1.00	16.55
1階	1.00	1.00	1.00	201.68	0.20	1.00	40.34	1.00	40.33

6-1.壁配置と壁による耐力・剛性

【1階-X】

Y座標 (P)	壁長さ (P)	柱1	柱2	壁の構成	壁要 素耐 カ (kN/m)	壁要 素剛 (kN/ra d./m)	壁基 準耐 力 (kN/m)	壁基 準剛 (kN/ra d./m)	Y座標 (m)	壁長 (m)	開口 係数	有効 長さ (m)	修正 耐力 (kN/m)	接合 部係 数	劣化 係数	耐力 (kN)	剛性 (kN/ra d.)
0.00	2.00	101	131	面材1:大壁:石膏ボード(胴縁仕様) 軸組 :筋かい(木材45x90襷掛)(〈ぎ打ち) 面材2:木ずり下地モルタル塗り	1.10 5.20 2.20	180 1040 610	8.50	1830	0.00	1.82	1.00	1.82	8.50	0.30	1.00	4.64	999.2
0.00	2.00	131	111	面材1:大壁:石膏ボード(胴縁仕様) 軸組 :なし 面材2:木ずり下地モルタル塗り	1.10 2.20	180 610	3.30	790	0.00	1.82	0.11	1.82	0.36	0.59	1.00	0.39	92.4
0.00	1.00	111	135	面材1:大壁:石膏ボード(胴縁仕様) 軸組:なし 面材2:太ずり下地モルタル塗り	1.10	180 610	3.30	790	0.00	0.91	1.00	0.91	3.30	0.79	1.00	2.36	564.3
0.00	5.00	135	132	面材1:大壁:石膏ボード(胴縁仕様) 軸組:なし 面材2:木ずり下地モルタル塗り	1.10	180 610	3.30	790	0.00	4.55	0.07	4.55	0.22	0.79	1.00	0.52	124.0
0.00	2.00	132	105	面材1:大壁:石膏ボード(胴縁仕様) 車組:筋かい(木材45x90襷掛)(〈ぎ打ち) 面材2:木ずり下地モルタル塗り	1.10 5.20 2.20	180 1040 610	8.50	1830	0.00	1.82	1.00	1.82	8.50	0.60	1.00	9.28	1998.4
1.50	1.00	116	124	面材1:大壁:石膏ボード(胴縁仕様) 軸組:なし 面材2:大壁:石膏ボード(胴縁仕様)	1.10 1.10	180 	2.20	360	1.37	0.91	1.00	0.91	2.20	0.96	1.00	1.92	314.5
1.50	1.00	124	125	面材1:大壁:石膏ボード(胴縁仕様) 軸組:なし 面材2:大壁:石膏ボード(胴縁仕様)	1.10	180	2.20	360	1.37	0.91	0.22	0.91	0.48	0.96	1.00	0.42	69.1
1.50	2.00	125	126	面材1:大壁:石膏ボード(胴縁仕様) 軸組:なし 面材2:大壁:石膏ボード(胴縁仕様)	1.10 1.10 	180 180	2.20	360	1.37	1.82	1.00	1.82	2.20	0.96	1.00	3.84	629.0
3.00	1.00	109	118	面材1:大壁:石膏ボード(胴縁仕様) 軸組:なし 面材2:大壁:石膏ボード(胴縁仕様)	1.10 1.10	180	2.20	360	2.73	0.91	1.00	0.91	2.20	0.96	1.00	1.92	314.5
3.00	1.00	118	119	面材1:大壁:石膏ボード(胴縁仕様) 軸組 :なし 面材2:大壁:石膏ボード(胴縁仕様)	1.10 1.10	180 180	2.20	360	2.73	0.91	0.22	0.91	0.48	0.96	1.00	0.42	69.1
3.00	1.00	119	120	面材1:大壁:石膏ボード(胴縁仕様) 軸組 :なし 面材2:大壁:石膏ボード(胴縁仕様)	1.10 1.10	180 180	2.20	360	2.73	0.91	1.00	0.91	2.20	0.96	1.00	1.92	314.5
3.00	2.00	120	121	面材1:大壁:石膏ボード(胴縁仕様) 軸組 :なし 面材2:大壁:石膏ボード(胴縁仕様)	1.10 1.10	180 180	2.20	360	2.73	1.82	0.11	1.82	0.24	0.96	1.00	0.42	69.1
3.00	1.00	121	122	面材1:大壁:石膏ボード(胴縁仕様) 軸組:なし 面材2:大壁:石膏ボード(胴縁仕様)	1.10 1.10	180 180	2.20	360	2.73	0.91	1.00	0.91	2.20	0.96	1.00	1.92	314.5
3.00	2.00	122	123	面材1:大壁:石膏ボード(胴縁仕様) 軸組 :なし 面材2:大壁:石膏ボード(胴縁仕様)	1.10 1.10	180 180	2.20	360	2.73	1.82	0.22	1.82	0.48	0.96	1.00	0.84	138.2
6.00	1.00	103	133	面材1:木ずり下地モルタル塗り 軸組 :なし 面材2:大壁:石膏ボード(胴縁仕様)	2.20 1.10	610 180	3.30	790	5.46	0.91	1.00	0.91	3.30	0.59	1.00	1.76	420.6
6.00	2.00	133	128	面材1:木ずり下地モルタル塗り 軸組 :なし 面材2:大壁:石膏ボード(胴縁仕様)	2.20 1.10	610 180	3.30	790	5.46	1.82	0.11	1.82	0.36	0.59	1.00	0.39	92.4
6.00	1.00	128	129	面材1:木ずり下地モルタル塗り 軸組 :筋かい(木材45x90襷掛)(くぎ打ち) 面材2:大壁:石膏ボード(胴縁仕様)	2.20 5.20 1.10	610 1040 180	8.50	1830	5.46	0.91	1.00	0.91	8.50	0.30	1.00	2.32	499.6
6.00	4.00	129	130	面材1:木ずり下地モルタル塗り 軸組 :なし 面材2:大壁:石膏ボード(胴縁仕様)	2.20 1.10	610 	3.30	790	5.46	3.64	0.13	3.64	0.44	0.59	1.00	0.77	184.9
6.00	2.00	130	104	面材1:木ずり下地モルタル塗り 軸組 :筋かい(木材45x90襷掛)(くぎ打ち) 面材2:大壁:石膏ボード(胴縁仕様)	2.20 5.20 1.10	610 1040 180	8.50	1830	5.46	1.82	1.00	1.82	8.50	0.30	0.60	4.64	999.2
5.00	2.83	102	103	面材1:木ずり下地モルタル塗り 軸組 :なし 面材2:大壁:石膏ボード(胴縁仕様)	2.20 1.10	610 180	3.30	790	4.55	2.57	1.00	1.82	3.30	0.59	1.00	3.51	594.8
					合計											44.22	8802.2 9

14

7.耐力と剛性

			耐力			剛性	
方向	階	壁 (kN)	柱 (kN)	合計 (kN)	壁 (kN/rad.)	柱 (kN/rad.)	合計 (kN/rad.)
X方向	3階						
	2階	11.74	0.00	11.74	2598.40	0.00	2598.40
	1階	44.22	0.00	44.22	8802.29	0.00	8802.29
	3階						
Y方向	2階	11.23	0.00	11.23	2284.56	0.00	2284.56
	1階	38.55	0.00	38.55	7419.28	0.00	7419.28

8.剛性率

方向	階	必要耐力 _(kN)	剛性 (kN/rad.)	層間変形角 (rad.)	層間変形角の 逆数	剛性率	剛性低減 (Fs)
	3階						
X方向	2階	16.55	2598.40	0.0064	157.00	0.84	1.00
	1階	40.34	8802.29	0.0046	218.23	1.16	1.00
	(平均)				187.61		
	3階						
∨士向	2階	16.55	2284.56	0.0072	138.04	0.86	1.00
了问	1階	40.34	7419.28	0.0054	183.94	1.14	1.00
	(平均)				160.99		

9.重心位置の算定

2階の重心

番号	要素面積Ai (m2)	単位荷重W (kN/m2)	面積×単位 荷重 (kN)	要素の重心 位置Xi (m)	AiXi	AiXiW	要素の重心 位置Yi (m)	AiYi	AiYiW
1	19.87	2.00		7.28	144.69		1.21	24.11	
2	13.25	2.00		4.85	64.30		2.43	32.15	
3	-6.62	2.00		2.43	-16.08		1.21	-8.04	
4	0.00	2.00		4.85	0.00		0.00	0.00	
合計	26.50		53.00		192.91	385.83		48.23	96.46

1階の重心

番号	要素面積Ai (m2)	単位荷重W (kN/m2)	面積×単位 荷重 (kN)	要素の重心 位置Xi (m)	AiXi	AiXiW	要素の重心 位置Yi (m)	AiYi	AiYiW
1	29.81	2.60		7.28	217.03		1.82	54.26	
2	24.84	2.60		4.25	105.50		3.64	90.43	
3	3.31	2.60		0.61	2.01		3.03	10.05	
4	0.00	2.60		0.00	0.00		1.21	0.00	
5	0.00	2.60		3.64	0.00		0.00	0.00	
合計	57.97		150.71		324.54	843.80		154.73	402.31

階	ΣΣΑiXiW	ΣΣΑίΨ	重心座標 xg (m)
3階			
2階	385.83	53.00	7.28
1階	843.80	150.71	6.04

階	ΣΣΑiΥiW	ΣΣΑίΨ	重心座標 yg (m)
3階			
2階	96.46	53.00	1.82
1階	402.31	150.71	2.45

10.偏心率の計算 【1階-X】

Y**座標** (m) lx (kN/rad.) 番号 lx*y lx*(y-ys)^2 92 450 0.00 0 0.00 603 0.00 0.00 6 0.00 1.37 1.37 8 2.73 2.73 2.73 13 2.73 2.73 2.73 2.73 5.46 859 421 92 500 2296 505 2728 5.46 5.46 5.46 5.46 8802.29 19412 合計 45965 4.55

番号	X座標 (m)	ly (kN/rad.)	ly*x	ly*(x-xs)^2
1	0.00	978	0	39246
2	0.00	92	0	3711
3	3.64	472	1717	3430
4	3.64	472	1717	3430
5	3.64	157	572	1143
6	3.64	49	178	356
7	3.64	334	1216	2429
8	7.28	472	3434	420
9	7.28	472	3434	420
10	7.28	314	2290	280
11	7.28	49	356	44
12	7.28	223	1622	198
13	10.92	1171	12790	24608
14	10.92	847	9244	17786
15	10.92	631	6889	13254
16	10.92	92	1009	1942
17	0.91	595	541	17512
合計		7419	47011	130209

【1階-Y】

	X座標(xs)	6.34(m)
尚I 心	Y座標(ys)	2.21(m)
壬入	X座標(xg)	6.04(m)
里心	Y座標(yg)	2.45(m)

	X方向	Y方向
剛心座標 (ys,xs)	2.21(m)	6.34(m)
重心座標 (yg,xg)	2.45(m)	6.04(m)
偏心距離 (ey,ex)	0.24(m)	0.30(m)
弾力半径 (rex,rey)	4.47(m)	4.87(m)
偏心率 (Rex,Rey)	0.05	0.06

診断表出力日:2013年5月12日 23:18:57

11.平均床倍率の計算

1層(2階床または1階屋根)

番号	床(屋根)の仕様	床倍率	面積 (m2)	床倍率× 面積	平均床倍 率
1	12mm合板:転ばし根太@340	1.00	13.25	13.25	
2	12mm合板:転ばし根太@340	1.00	13.25	13.25	
3	火打ち:金物HBまたは木製90×90:平均負担面積3.3m2以下: 梁せい150以上	0.36	13.25	4.77	
4	火打ち:金物HBまたは木製90×90:平均負担面積3.3m2以下: 梁せい150以上	0.36	13.25	4.77	0.93
5	火打ち:金物HBまたは木製90×90:平均負担面積3.3m2以下: 梁せい150以上	0.36	31.47	11.33	
6	5寸勾配以下:幅180杉板9mm以上(又は構造用パネルI・2・3 級):垂木@500以下転ばし	0.20	31.47	6.29	
				53.66	
<u> </u>				1階床面積	= 57.97 (m

2層(3階床または2階屋根) 平均床倍 床倍率× 面積 番号 床倍率 床(屋根)の仕様 (m2) 面積 率 火打ち:金物HBまたは木製90×90:平均負担面積3.3m2以下: 1 0.36 26.50 9.54 梁せい150以上 5寸勾配以下:幅180杉板9mm以上(又は構造用パネル1・2・3 2 0.20 26.50 5.30 0.56 級): 垂木@500以下転ばし 合計 14.84

2階床面積 = 26.50 (m2)

3層(3階屋根)

番号	床(屋根)の仕様	床倍率	面積 (m2)	床倍率× 面積	平均床倍 率
				0.00	0.00

12.偏心率と床仕様による低減係数

階	方向	偏心率	平均床倍 率	偏心率床 仕様低 減Fe
3階				
2階	X方向	0.06	0.56	1.00
1階		0.05	0.93	1.00
3階				
2階	Y方向	0.10	0.56	1.00
1階		0.06	0.93	1.00

3階床面積 = 0.00 (m2)

13.保有する耐力の算定

方向	階	保有する 耐力(修正 前) _(kN)	剛性率低 減Fs	偏心率床 仕様低 減Fe	保有する 耐力edQu (kN)
	3階				
X方向	2階	11.74	1.00	1.00	11.74
	1階	44.22	1.00	1.00	44.21
	3階				
Y方向	2階	11.23	1.00	1.00	11.22
	1階	38.55	1.00	1.00	38.55

14.判定

方向	階	必要耐力 Qr (kN)	保有する 耐力edQu (kN)	充足率 edQu/Qr	判定
	3階				
X方向	2階	16.55	11.74	0.70	倒壊する可能性がある
	1階	40.33	44.21	1.09	一応倒壊しない
	3階				
Y方向	2階	16.55	11.22	0.67	倒壊する可能性が高い
	1階	40.33	38.55	0.95	倒壊する可能性がある

15.地盤

地形・地盤について,下表のいずれかに該当するものは,「問題あり」とし,報告する. 問題の生じやすい地盤の例

()	問題なし.
()	敷地が傾斜地で,敷地内に盛り土,切り土部分がある.
()	建物周囲に,1.5m以上の擁壁がある.
()	付近は液状化の可能性があると言われている地域である.
()	田畑の造成地で,造成後5年以内である.
()	河川・湖沼・池などの埋立地である.
()	スウェーデン式サウンディング試験等で,地耐力30kN/m2以下の層が3m以上ある.
その他の 所見	特になし

16.基礎

基礎の評価は、地盤と基礎の組み合わせに応じて、下表で該当するものにをつけ、該当する評価を報告する.

地盤の種	杭基礎,布基	玉石,石積み,ブロック基	
類	鉄筋が入っている	鉄筋が入っていない	礎など
良い・普 通の地盤	安全である.	びび割れが入る恐れがあ る.	玉石などが移動したり,傾 く可能性がある.
やや悪い 地盤	ひび割れが入る恐れがあ る.	亀裂が入る恐れがある.	玉石などが移動したり,傾 く可能性がある.
非常に悪 い地盤	ひび割れが入る恐れがあ る. 住宅が傾く可能性がある.	大きな亀裂が入る恐れがあ る・ 住宅が傾く可能性が高い・	玉石などが移動したり,不 陸が生じる. 住宅が傾く可能性が高い.

17.水平構造面の損傷

下表のいずれかに該当するものは,「問題あり」とし,警告を加える. 損傷を生じやすい形状

()	問題なし.
()	平面形に凹凸が多い。
()	2階又は3階が荒板などの床で,住宅幅の1/2以上の大きさの吹き抜けがある.
()	短辺が4mを超える大きな吹き抜けがある.
()	2階の直下に壁がない外周壁が2面以上ある.(ただし,枠組壁工法の場合を除く)
()	部分2階建てで,2階の直下部分に壁が少ない.
その他の 所見	特になし

18.横架材接合部の外れ

下表に該当するものがある場合には,「問題あり」とし,報告する. 横架材接合部の外れを生じやすい例

()	問題なし.
()	・12畳以上の大きな部屋がある.
()	・母屋部分より、下屋部分に壁が多い.
()	・羽子板ボルトなどの横架材接合部に補強金物がない.
その他の 所見	特になし

19.屋根葺き材の落下の可能性

下表で該当するものに をつけ,「安全です」以外に該当するものは「問題あり」とし,該当する評価を報告する. 屋根葺き材の損傷の可能性

屋根葺き材の仕様		損傷の可能性	
	棟瓦	補強棟	脱落の可能性は小さい
		それ以外	脱落の可能性が大きい
瓦等	平瓦	全てを留めつけ	安全です
		3~4段毎の留めつけ	─応安全です
		留めつけなし	脱落の可能性がある
金属板葺き		安全です	

20.診断表

この住宅は,建築基準法の想定する大地震で, 倒壊する可能性が高い その階と方向は,(2階Y方向)と考えられる.

評点

	X方向	Y方向
3階		
2階	0.70	0.67
1階	1.09	0.95

その他に、以下の部位が大きく壊れる可能性があります.

		部位	箇所など
()	地盤の崩壊等	問題なし
()	基礎の破損・亀裂等	問題なし
()	水平構面(床や屋根)の 損傷	問題なし
()	柱の折損	問題なし
()	横架材接合部の外れ	問題なし
()	屋根葺き材の落下	問題なし

その他の注意事項. |特になし

診断者	****	講習会	主催者	****
所属	****		講習終了番号	****
連絡先	**_****_***		TEL: **-***-***	